



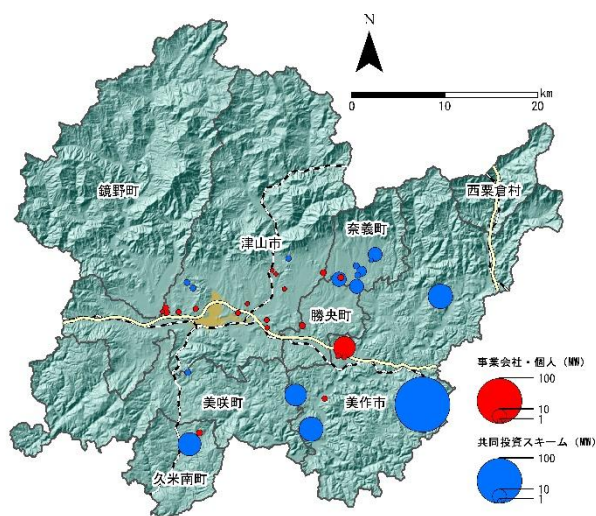
メガソーラー開発が地域に与える影響に関する研究

法文学部 准教授 菊池 慶之

2012年の再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度開始以降、全国に続々とソーラーパネルを敷き詰めた太陽光発電施設が作られています。特に発電出力1メガワットを超える太陽光発電施設はメガソーラーと呼ばれ、工場の屋根や遊休地はもとより、山林や農地など様々な土地に立地しています。固定価格買い取り制度は電力会社に一定期間決まった価格で電力を買い取ることを約束する制度ですので、メガソーラーが安定した収入を得られる事業になったためです。ただし、メガソーラーの建設には多額の費用がかかるため、収益性の見込めるメガソーラーを開発するには、相応の技術力、資本力が求められます。このため、技術力のある企業が主導し、投資家から広く資金を集める共同投資の仕組みでメガソーラーを開発する事例が急増することになりました。津山都市圏における調査では、メガソーラー36カ所のうち16カ所が共同投資の仕組みであり、特に規模の大きなメガソーラーほどその割合が高くなっていました。共同投資の仕組みは、金融市場を介して不特定多数の投資家と特定の地域に立地するメガソーラーを結びつけるものです。したがって、メガソーラーを通じて地方の土地も金融商品となりつつあると見る事が出来ます。



岡山県津山市に設置されたメガソーラー



津山都市圏におけるメガソーラーの分布

該当する目標にご利用ください。





持続可能な社会の構築に向けた学校現場での 教育実践とその研究

教育学研究科 教授 松本 一郎

松本研究室では過去19年にわたり地域の小学校を中心に幼稚園・保育所、中学校、高等学校において、特に野外学習支援を通じた自然環境教育とその研究に力を注いできました。特に、理科授業や総合的な学習の時間を中心に、従来学校で学ぶ内容のうち「環境意識」についてそれを向上させるような、授業実践の研究・開発に尽力しています。幼稚園や保育所での泥団子実践（土壌教育）からはじまり、自然の恵みと災いの二面性を実際の大自然の中で学ぶ学習支援を行っています。

以上のような実践保育や授業を通して、児童・生徒に、地球環境の大切さ、人間社会の在り方・方向性などを自分事として実感してほしいと考えています。また、実感を伴った学びを通して、主体的に考え、行動できる人材が社会の中で増えてほしいと願っています。また、定期的に松江市環境フェスティバルのような市民が学べる場においても、学生・院生とともに出展し、日頃の教育・研究成果の普及に努めています。

